

**アークフラッシュ施工された老人施設7年間インフルエンザの発症が報告されておりません。**

< \* > <http://www.arc-flash.co.jp> **新着施工写真を更新いたしました**

**新商品の資料を掲載しました。印刷も可能です。**

<< 施工報告 >>

**白井南山団地13棟のマンション郡の工事が完了いたしました。**

**日本でのアークフラッシュ施工では最大規模の工事でした。**

<< 感染症情報 >>

**米オレゴン州で、日本への旅行中にはしかに感染した男性が、帰国してから発症し、二次感染も発生して騒ぎになっている。**

日本はかねて「はしか輸出国」として海外から問題視されていたが、今回の流行を機に対策を急がないと、さらに厳しい目を向けられることになりそうだ。

患者が発生したのは、同州第3の都市ユージン。地元オレゴン大学の校内新聞オレゴン・デイリー・エメラルド(電子版)などによると、5月22日に日本への旅行から帰国した21歳の男性が、25日にはしかを発症。22日夜にこの男性と会った別の20歳代の男性も、28日に発症した。2人目の患者はその後、看護師の指示を無視して外出し、発症後もコンサート会場やバーなどへ行っていたことが判明。地元の保健当局は今月4日、この患者が立ち寄った場所と時間帯を発表し、接触した可能性のある市民は連絡するよう求めている。

**2007年6月9日、日本で現在流行しているはしかが台湾に持ち込まれていたことがわかった。**台湾メディアによると、31歳の台湾人女性は5月16日から24日までの間、団体旅行で大阪、神戸、京都を訪れたという。24日に台湾に戻った直後から疲労を感じ、鼻水や咳が出始めた。6月1日、胸部に発疹が出始め、翌日には手や腕にも広がりはしかの疑いがあると診断され大型病院へと移された。

6月4日、台湾に戻ってから9度目の診察でようやくはしかであると診断され、隔離病室へ入れられた。病状は安定しており数日中には退院できると見られている。なお、一緒に日本を訪れたツアー客27人や、家族・友人などに感染症状は見られないという。

**由布市のO111集団感染で8日、小学生2人の感染が確認された。感染者は計26人になった。**

**感染拡大が世界で懸念されている 広範囲薬剤耐性** (XDR)の結核菌がさらに強力になり、すべての抗菌剤が効かなくなったタイプがイタリアなどで検出されたことがわかった。世界保健機関 (WHO) ストップ結核部のマリオ・ラビリオーネ部長によると「XXDR」(極度薬剤耐性)の結核菌という新名称も提案されているという

イタリアの患者は女性2人。菌は最初から多数の抗菌剤に耐性を持っていたが、結核専門でない医療機関で様々な抗菌剤を投与され、次第にすべての抗菌剤に対する耐性がついたらしい。2人とも2003年に死亡したことが、欧州の専門誌で先月、報告された

**2007年6月6日、北京市衛生局**は今年5月20日以来、北京市で手足口病が流行していると警告し、予防方法・感染後の対処法などを発表した。

現在、手足口病は北京市の学校・託児施設を中心に猛威を振るっている。市の疾病コントロールセンターは、両親に対し、子供の体温、口や手に水疱が出ていないかなどを午前・午後と定期的に確認するようよびかけた。もし感染した場合はただちに他の子供から隔離し、消毒するようにとのこと。専門家は、室内の換気を十分にすること、食事前の手洗いを徹底すること、子供が冷たい物を食べ過ぎないように注意すること、生水・傷んだ食品を取らないこと、なるべく人混みに子供をつれていかないことなどを対策として挙げている。手足口病は発疹性口腔炎ともよばれ、口・手・足に水疱が出来る病気。感染者はほぼ乳幼児・小児に限られる。多くの場合は1週間ほどで自然治癒するが、時に合併症などを起こし、死にいたるケースもある。

今年春、山東省で手足口病が大流行したが、政府は市民のパニックを恐れたためか、情報を明示しなかった。そのため「奇病が流行」数十人が死亡」などとのデマが流れる事態となった。

**2007年6月5日、衛生部**は鳥インフルエンザに感染した人民解放軍士官が死亡したと発表した。死亡した士官は先月9日に発病、咳・熱などの肺炎の症状に見舞われ、先月14日に入院した。中国疾病予防コントロールセンターと解放軍疾病予防コントロールセンターが患者の検査を行い、24日に鳥インフルエンザと確定した。

発病から病名確定までに2週間以上の時間を要しており、感染の拡大が心配される。衛生部は患者との接触履歴を持つ者を調査した結果、感染は認められなかったと発表、すでに接触者への観察処置を解除したという

**\* 発行責任者 株式会社アークフラッシュ本部**  
笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 [sasagawa@arc-flash.com](mailto:sasagawa@arc-flash.com)

1号～73号までを配信希望の方はメールにて申込ください。